

組織目標評価報告書（令和6年度）

部局名:

経済学部

学域名:

社会文化科学学域(経)

部局長名:

村井 浄信

目 標・取 組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(2-1) (2-2) (2-3) (7-1)	1 高校別志願者推移や新入生アンケートのデータを分析した上で、志願者数の伸び悩みが見られる県内の高校に対し、聞き取り調査を実施した。また、オープンキャンパスにおいて、受験生の進路決定に大きな影響を与える保護者を対象とした説明会を実施した。さらに、商業高校17校の担当者25名にご参加いただき、説明会およびグループディスカッションを実施した。また、2026年度入学者選抜より特別選抜の枠を拡大することに伴い、入学前教育の導入を決定した。 2 ECBOを再開し、2月に8日間の日程でラオス・カンボジアへの海外研修を実施した。本プログラムには、経済学部生、農学部生、およびGDPの学生を合わせた計12名が参加し、経済学部教員が引率した。 3 教務委員会において「Target2025」に基づく新規科目の実施体制を整備した。また現行科目の検証を行い、その結果を踏まえて、2025年度よりガイダンス科目「修学の方法」および工学部との連携科目「実践コミュニケーション論」を改善することとした。 4 教務委員会において、夜間主コース廃止後を見据えた長期的な教育実施計画の策定を進めている。 5 一般選抜(前期日程)の個別学力検査について、入試・高大接続部門と連携し、他大学の入学者選抜の実態調査を実施し、併せて、入学者選抜の個票データの分析を行なった。その結果を踏まえ、個別学力検査の改革について学部構成員の合意を形成した。また、特別選抜入学の学生のうち商業高校出身の学生を対象に、試行的に定性的な調査を実施した。 6 天王寺谷准教授のCFP算定は、社会的インパクトのある取組として学内外から高く評価されている。本学部では、その活動をさらに支援するため、戦略経費への申請を行うとともに、来年度以降の支援体制を整えた。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(1-1) (14-1)	1 経済学部が実施する6つの産学官連携授業のうち、「現代中小企業論」について、岡山県中小企業家同友会と意見交換会を行なった。 2 天王寺谷准教授のCFP算定の取組が、『運営費交付金「ミッション実現戦略分」の評価に関する対応』において、最も高く評価される事例として選出された。 3 経済学部ホームカミングデイの取組内容の検証・改善を進めた結果、今年度は新たな試みとして、元学部長をお招きし『退職教員を囲む会』として開催した。 4 公的ミクロデータオンライン施設に関する説明会を社会文化科学研究科と経済学部で共催で実施した。経済学部の全教員に加え、他部局からも三村理事、阿部理事を含む計15名の教員にご参加いただいた。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(11-2) (15-1)	1 教授会および各委員会の会議資料配布や報告書提出のペーパーレス化を進め、岡山大学経済学会の会費納入管理を電子化するなど、DX化を推進した。 2 採用人事において、全国の研究者から女性候補者をリストアップし、手紙による働きかけを行なった。その結果、2024年度の採用人事3件のうち2件で女性教員を採用することができた。これにより、2025年4月時点において、「女性教員登用に關する目標と計画」に掲げる2028年度末までの経済学部教員の女性教員数9名という目標を暫定的に達成する。さらに、2025年度中に女性准教授2名が教授に昇任する予定であり、これにより女性教授の在職者数は、目標の3名を上回る4名となる。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。